

# 諏訪小だより

令和6年4月8日  
4月号  
多摩市立諏訪小学校  
校長 齋藤 幸之介

## 30周年を今後のさらなる発展の契機に 齋藤 幸之介 子供たちが発見する「変遷」

子供たちの通学路からほど近くに見える諏訪中学校の桜にも多くの花が見られるようになりました。これからさらに多くの花を咲かせ、風が強い日には子供たちが桜吹雪の中を歓声を上げながら登校する様子が目に浮かびます。

御子様の御入学並びに御進学、誠におめでとうございます。本日より令和6年度多摩市立諏訪小学校の教育活動が始まります。皆様には様々な点で御理解と御協力を賜ることとなりますが、どうぞよろしく願い申し上げます。

さて、本年度は何といっても開校30周年を迎えることが子供たち、教職員、地域の方々にとってとても大きな意味をもつ、と捉えています。

すでにご存じの方々も多くいらっしゃいますが、本校の歴史は多摩ニュータウンの歩みと共にある、と言えましょう。

### 多摩ニュータウンの先陣を切った諏訪・永山地域

1950年代の高度経済成長期に見られた東京都心部を中心とした人口増に対応すべく、当時多摩町と言われたこの地域の都市計画が決定されました。ニュータウン開発が始まったわけです。1960年後半より始まった工事はまずは諏訪・永山地域を中心に行われ、1971年に第一次の入居が始まりました。1972年には、現在本校があるところに南諏訪小学校が、その5年後には現在多摩市立教育センターとなっているところに中諏訪小学校が開校しました。諏訪の地で学校教育も盛んに行われるようになった、と言えましょう。この少し前の1971年11月には多摩町が多摩市となりました。しばらくすると、小田急多摩線や京王相模原線が永山駅を通ることになりました。

一時期、南諏訪小学校と中諏訪小学校の児童が減少し、統廃合が行われたことを御存じの方が多くと思います。1994年4月、諏訪小学校が誕生しました。それから30年、地域の様子も変化してきたのだろう、と推察しているところです。

今年の2月、新4年生が3年生のときに、社会科で「多摩市の移り変わり」を学習しました。開発前の写真と現在とを比較しながら、集合住宅がものすごく多くなったこと、またこれに伴って道路や鉄道などの交通網も整ってきたこと、それでも「里山」とも言われる自然を残した地域も近くに見られることなど、様々な観点から多摩市の移り変わりを明らかにしていきました。

このように、多摩市、もちろん諏訪も50年の間に大きく変容しました。そして、子供たちはこのことを自らつかんでいきました。そこには、変化に対する感嘆もありました。

ここには、子供たちが自ら地域を追い求める姿があります。今年度は地域と学校とを取り上げながら、その確実で、また大きな変化を自ら理解する絶好の機会です。

### 現在から未来を考える機会として

なぜこれが大切なのでしょう。それは、地域の未来を考えることにもつながるからです。

3月に旅立った子供たちは、地域のよさを改めて考え、自分たちに何ができるのかを探りました。そこには、諏訪の地をよりよいものにする、という「未来」を見据えた姿もありました。

もちろん他地域に、また世界に羽ばたいていくことも子供たちの選択によるものです。同時に、この地を大切に思う気持ち、「郷土愛」とも申しましょか、このような心情を育てたい、それが開校30周年を迎えるにあたっての最も大きな目標でもあります。たとどこで生活をしていても、あの時のことが生かされている、そんな活動をぜひ行っていききたいと思っています。

### <参考>

多摩市市制施行50周年記念誌(2021年)

編集・発行多摩市